

素晴らしいミツバチ



ミツバチの世界

養蜂とは、ミツバチの素晴らしい世界。永年蜂を愛し続けてきた久世佳弘氏が語る素晴らしいミツバチの世界。

ミツバチの家族構成

いよいよ夏ですね。初夏といつのは、ミツバチたちが最も大家族になる時期でもあります。この時期、ひとつの大巣になんと一萬五千～三万匹を超えるアリーリーが同居します。

家族構成は、女王蜂が一匹、オス蜂が千匹ほど、残りはすべて働き蜂(メス蜂)です。アリーリーが何万匹になつても、わともむじ一匹の女王蜂から生まれた子供たちですから、みんな兄弟・姉妹なんですね。

アリーリーを維持するために女王蜂は毎日産卵を繰り返しますが、数年間続くこの産卵、実はたつた一度の婚姻飛行のときに複数のオスを相手にしたこと持続しているのです。女王はこの時の飛行を終えると飛ぶことも出来ず、歩くこともおぼつかない状態となり、ただひたすら産卵を続けることになります。でも働き蜂が工事を口移しで運んでくれたり、育児や、身のまわりの世話をすべてこなしてくれますから、巣の中でもじりじりと構えていたいわけです。

アリーリーの仕事分担

働き蜂にはさまざまな仕事があり、成長の段階に応じておおまかに4つの仕事に従事する事になります。一つめは巣内の掃除です。これは羽化してすぐの若い蜂が担当します。

二つめが子育てです。担当は、羽化して3～10日前後の蜂です。

次に子育て以外の巣内の仕事に就きます。門番や食料の貯蔵など、結構忙しく働きます。練習飛行もこの時期におこないます。

最後に外役といつて、外をまわり花蜜や花粉を集めくる仕事をします。ですから私たちがふだん目にするミツバチは、中の仕事をひととねり終えた、ベテランのミツバチたちなんですね。

臨機応変な分業体制

いかおひこつて順序が決まつてないミツバチたちの仕事ですが、時と場合によつて、臨機応変に交替を

していながらも確認されています。

仕事の順序を飛ばしたり、逆に後戻りする蜂もいて、必ずしもかいつ型にはまつた仕事振りではなく、天候などの自然環境にも大きく左右されるようです。

それぞれの仕事で、使用するからだの部位が異なるため、その時の仕事にあつた筋肉や器官が発達するのですが、驚くべきことに何か別の仕事に切り替える必要が出た時には、瞬時にその器官が発達するのです。

私たち人間の世界でも、効率的な仕事をおこなうために分業という体制を発展させてきましたが、同時に弊害をもたらしていくこともあります。

ミツバチたちはこの分業の弊害に早くから気付き、生態を変化させてきたのかもしませんね。



久世佳弘
札幌山本養蜂園社長

久世佳弘プロフィール

昭和14年北海道常呂町生まれ

平成6年(株)札幌山本養蜂園として独立

事業内容ハチミツ関連商品・養蜂器具卸販売

電話 011-873-3838
住所 所札幌市白石区北郷2条7丁目6の13

